

追加説明資料

- 現地調査の実施状況について[第14回会合(2020年10月16日)資料3]の訂正
- 追加説明資料 リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁の状況[第15回会合(2020年11月12日)資料6 - 1]の訂正

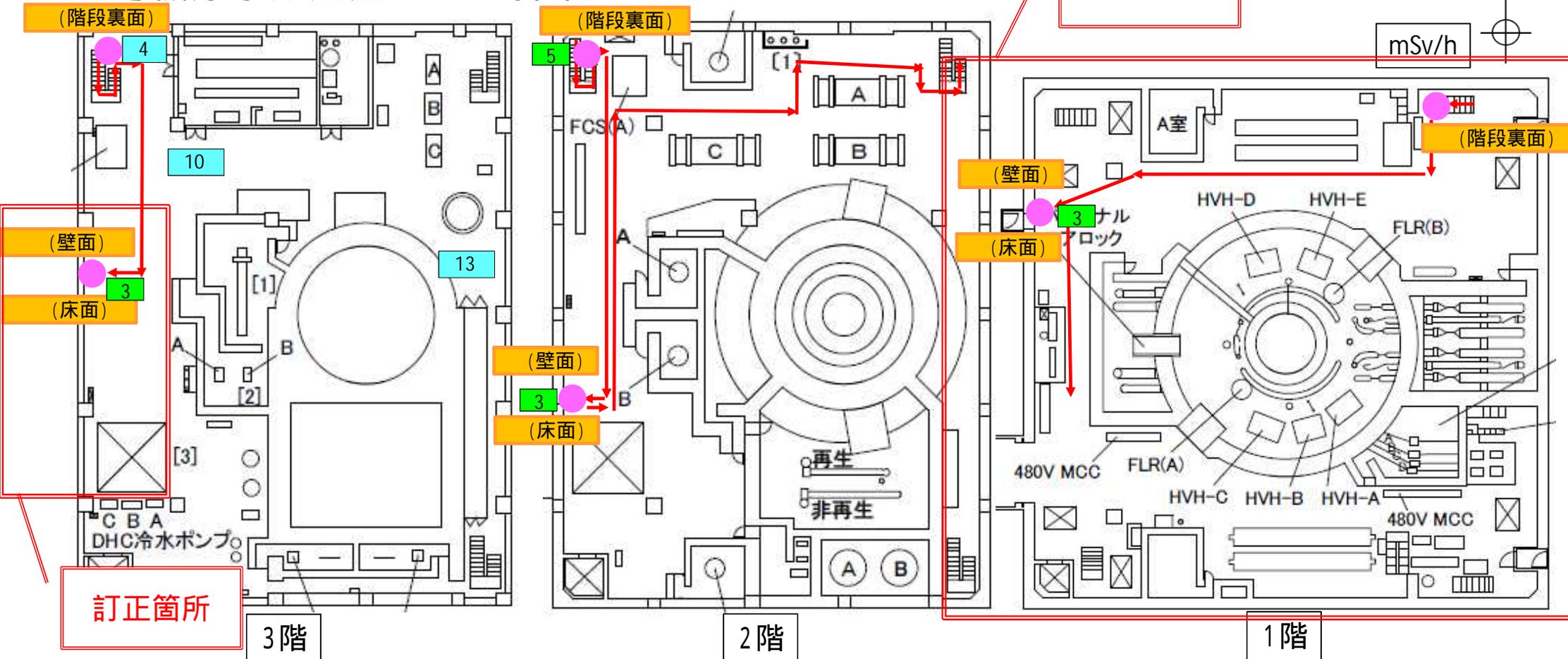
➤ 現地調査の実施状況について[第14回会合(2020年10月16日)
資料3]の訂正

～ 2号機原子炉建屋のスミア採取の採取位置等の訂正～

2号機原子炉建屋のスミア採取については、令和2年10月8日の原子力規制庁による調査を踏まえて、原子炉建屋1階から5階までのスミア試料の採取位置を示していたが、現地調査時の動画を確認した結果、**1階及び3階の採取位置**に誤記があったため訂正する。

2号機原子炉建屋 スミア採取

東京電力福島第一原子力発電所における
事故の分析に係る検討会 第14回会合
資料3

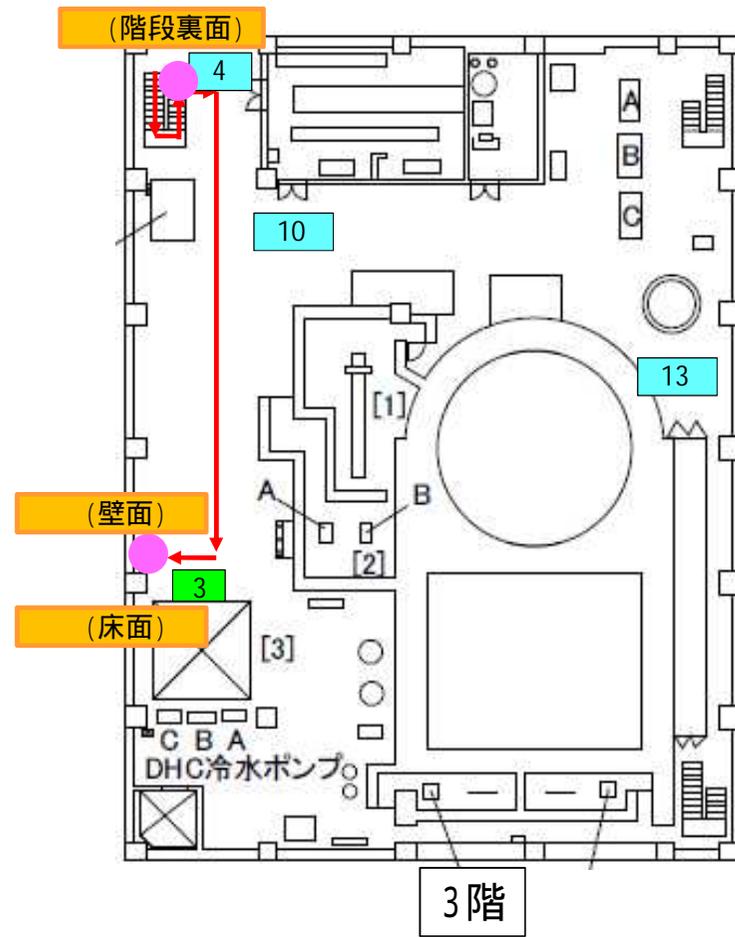
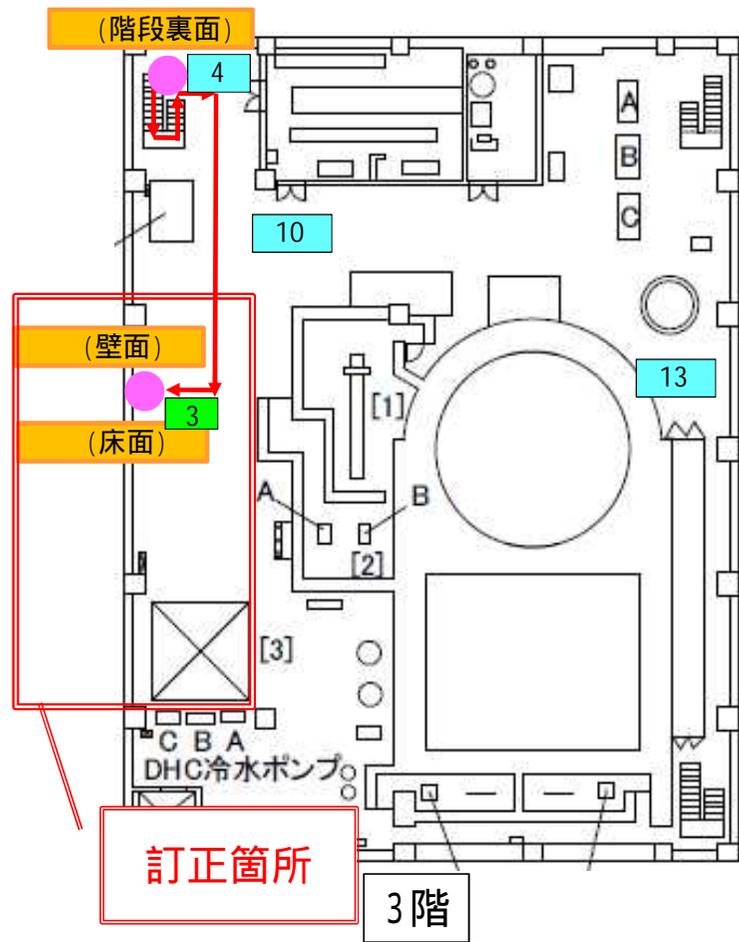


訂正箇所

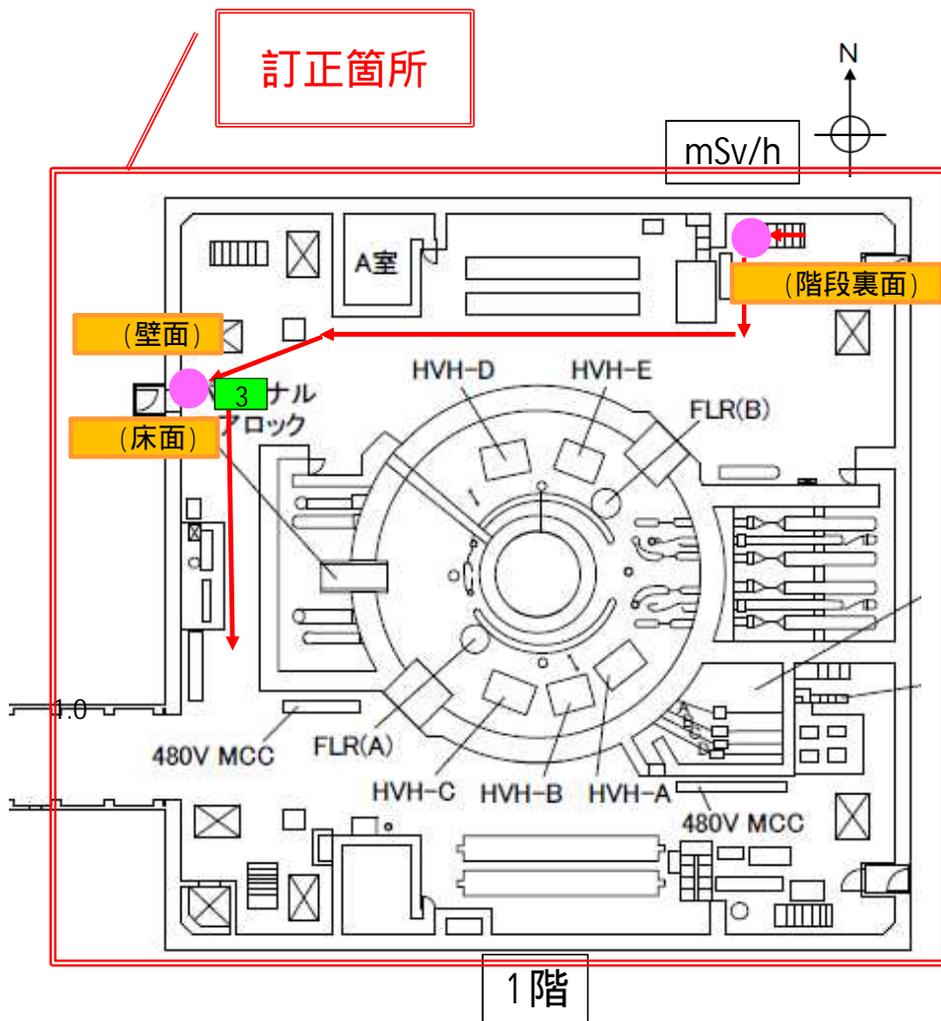
訂正箇所

- : スミア採取箇所
- : スミア試料番号 (実際の試料番号を記載)
- : 原子力規制庁による測定結果 (令和2年9月10日)
- : 原子力規制庁による測定結果 (令和2年10月8日)

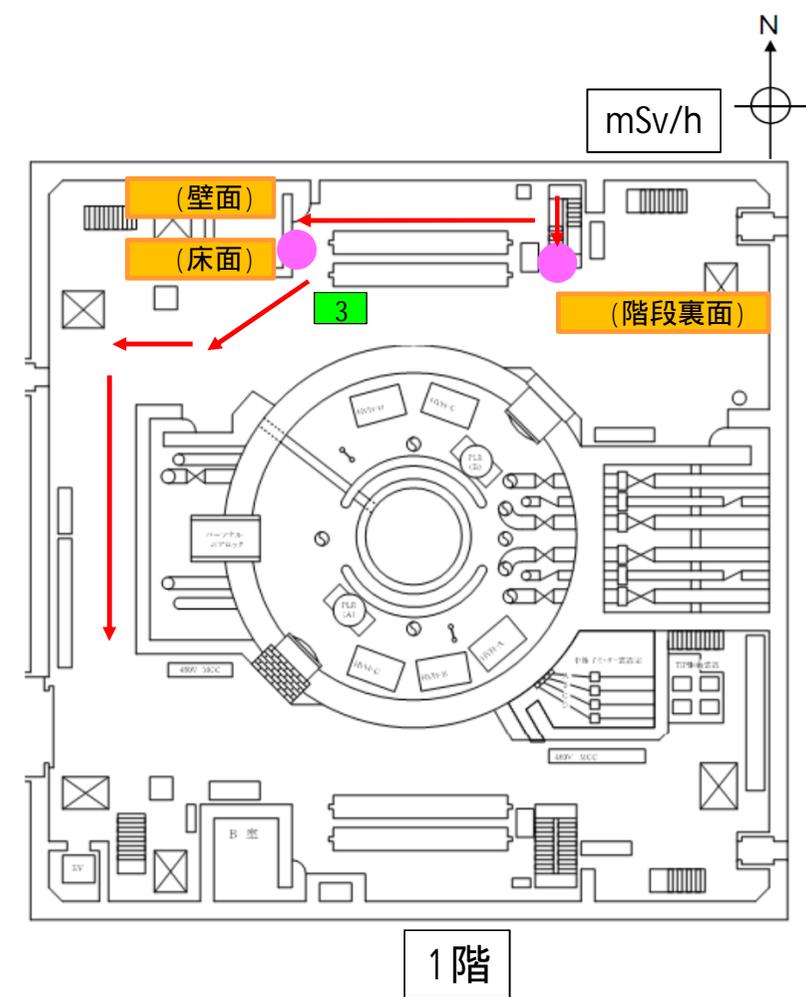
図面は東京電力資料及び政府事故調報告書より抜粋一部加工



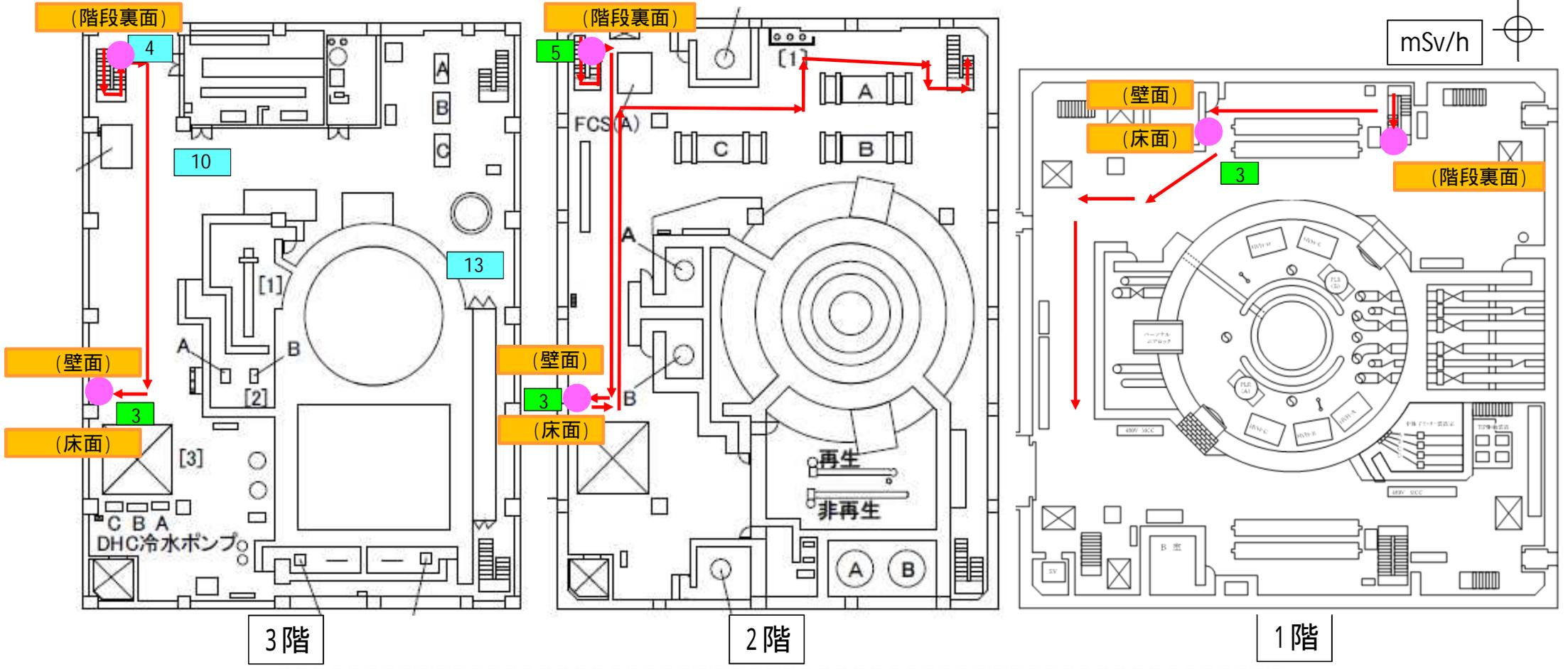
訂正箇所



訂正



2号機原子炉建屋 スミア採取



● : スミア採取箇所
 : 原子力規制庁による測定結果(令和2年9月10日)
 : スミア試料番号(実際の試料番号を記載)
 : 原子力規制庁による測定結果(令和2年10月8日)
 図面は東京電力資料及び政府事故調報告書より抜粋一部加工

➤ 追加説明資料 リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁の状況[第15回会合(2020年11月12日)資料6-1]の訂正

～ 2号機リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁の開閉状態の訂正～

2号機のリアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁(AO弁)については、令和2年10月18日の原子力規制庁による現地調査の結果を踏まえて、『AO弁上部の手動ハンドルが「閉」状態にされていることを確認。』としていたが、確認を行った弁が異なっていたこと、また、2021年5月20日、24日に東京電力ホールディングス株式会社が行った調査において、当該弁の「開」状態が確認されたことから、『2021年5月20、24日の東京電力の調査において、当該弁が「開」状態であることを確認。』に訂正する。

調査・分析に係る資料等のリスト（抜粋）

No.	調査・分析に必要な資料等(東京電力HD依頼リスト)	伝達日	対応状況
31-2	< 建屋DF > 1～3号機のリアクターキャビティ差圧調整ダクトは、AO弁が通常時開、異常時閉の設計だが、各号機で弁の設計が異なっている。各号機で電源断、及び空気断時の挙動の情報。(異常時閉後に制御空気がなくなること で開に戻る設計となっていないかの確認)	8/5 追加	現地調査等の状況を整理

リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁（AO弁）については、

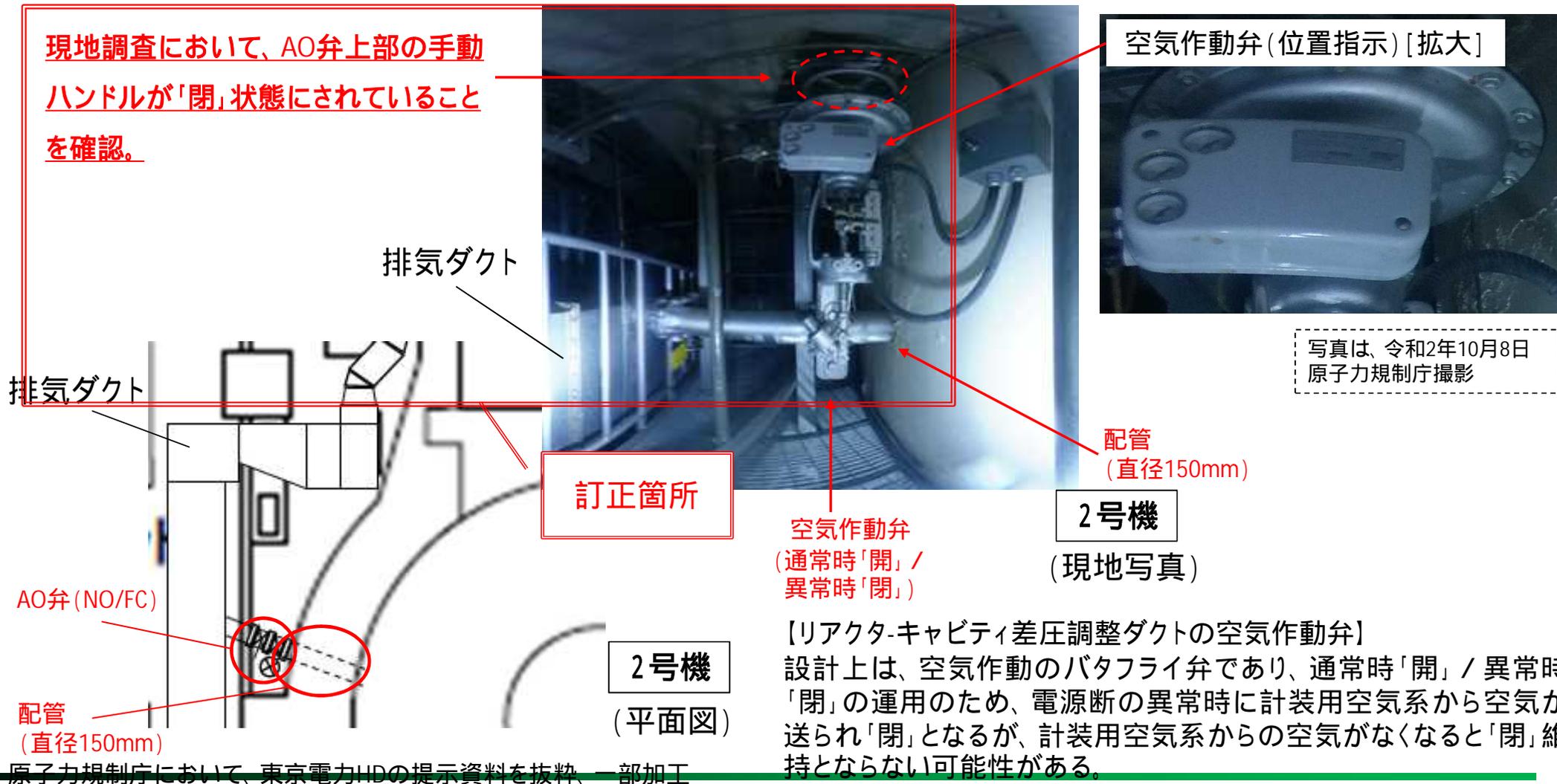
- 1号機は、東京電力HDの現地作業時に弁「閉」の状態が確認されている。
- 2号機は、原子力規制庁の現地調査時に手動ハンドルによって弁「閉」の状態が確認されている。
- 3号機は、当該配管・弁が設置されている原子炉建屋4階西側フロアは高線量であり、弁の作動状態の確認は困難な状態である。

訂正箇所

1号機原子炉格納容器上蓋の状況確認について（2019年11月28日東京電力ホールディングス株式会社）を参照

2号機リアクターキャビティ差圧調整ダクトの配管の設計(原子炉建屋4階西側)

現地調査において、AO弁上部の
ハンドルが「閉」状態にされていること
を確認。



原子力規制庁において、東京電力HDの提示資料を抜粋、一部加工

調査・分析に係る資料等のリスト (抜粋)

No.	調査・分析に必要な資料等(東京電力HD依頼リスト)	伝達日	対応状況
31-2	< 建屋DF > 1～3号機のリアクターキャビティ差圧調整ダクトは、AO弁が通常時開、異常時閉の設計だが、各号機で弁の設計が異なっている。各号機で電源断、及び空気断時の挙動の情報。(異常時閉後に制御空気がなくなること で開に戻る設計となっていないかの確認)	8/5 追加	現地調査等の状況を整理

リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁(AO弁)については、

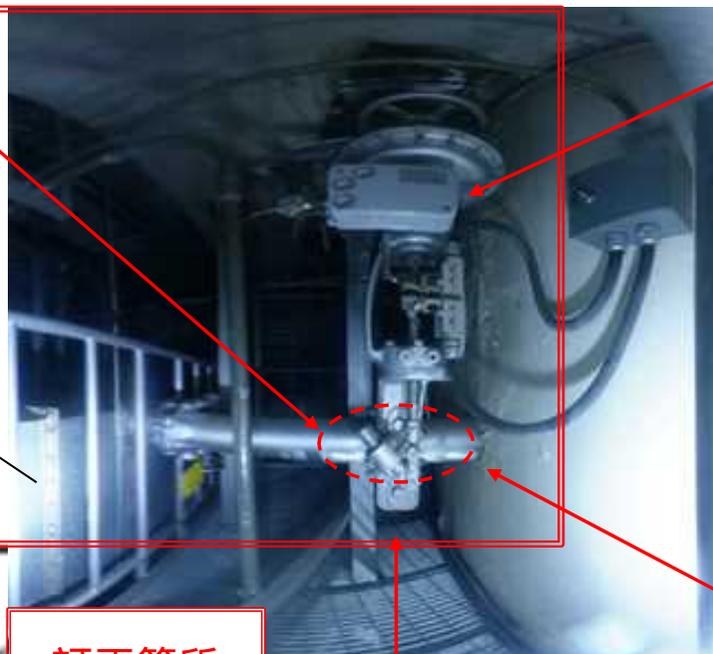
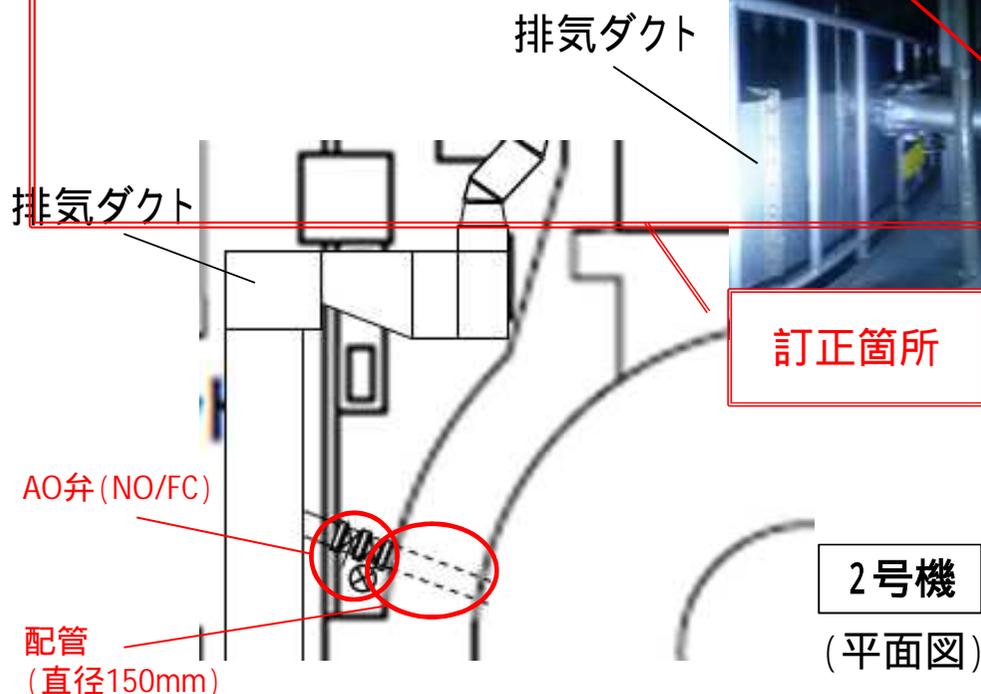
- 1号機は、東京電力HDの現地作業時に弁「閉」の状態が確認されている。
- 2号機は、原子力規制庁の現地調査時に手動ハンドルによって弁「開」の状態が確認されている。
- 3号機は、当該配管・弁が設置されている原子炉建屋4階西側フロアは高線量であり、弁の作動状態の確認は困難な状態である。

訂正箇所

1号機原子炉格納容器上蓋の状況確認について(2019年11月28日東京電力ホールディングス株式会社)を参照

2号機リアクターキャビティ差圧調整ダクトの配管の設計(原子炉建屋4階西側)

2021年5月20、24日の東京電力の調査
において、当該弁が「開」状態であるこ
とを確認。



写真は、令和2年10月8日
原子力規制庁撮影

配管
(直径150mm)

2号機

(現地写真)

空気作動弁
(通常時「開」/
異常時「閉」)

2号機

(平面図)

【リアクターキャビティ差圧調整ダクトの空気作動弁】
設計上は、空気作動のバタフライ弁であり、通常時「開」/異常時
「閉」の運用のため、電源断の異常時に計装用空気系から空気が
送られ「閉」となるが、計装用空気系からの空気がなくなると「閉」維
持とならない可能性がある。